

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

園名 江の島保育園
活動日 2025年11月13.14.17.18.20.21日
クラス名(年齢) すもも組(2歳児)
年間テーマ 感覚

活動のテーマ「自分のからだを知る」

〈テーマの設定理由〉

保育室に用意してある押し箱に入って自分のからだの大きさを感じたり、遊具のスナップ棒を腕に何個もつけて手の長さを調べたりする姿が見られる。自分のからだを使って、大きさや高さ、長さを知る為のあそびが多く見られるため、テーマを「自分のからだを知る」とした。

1. 活動スケジュール

11/13. 11/14. 11/17. 11/18. 11/20. 11/21

- 保育室の構造コーナーにウレタン積み木を用意する。
- 空間を広めに設定し、子どもが自由に扱えるようにする。
- 子どものあそびを観察しながら、提案・見守り・評価などの必要な援助をしていく。
- 子どもが密集することが予測される。一人ひとりのあそびを保障しながら、空間や子ども同士のやりとりを助け、危険のないよう配慮する。
- 子どもが遊具を使い遊んでいる様子を写真におさめる。
- 子どもの姿を、大人同士で共有し、援助を振り返る。

2. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ウレタン積み木
- 構造コーナーを広く設定する

3. 探求活動の実践

<活動の内容>

- ウレタンの硬さや重さ、触感等を通して素材を知っていく。
- 指先や手の平、足の踏ん張りや体幹を使って持ち上げる。
- 他児や他の積み木にぶつからないように空間認知しながら、積み木を移動させる。
- 積む、並べる、重ねる、崩すを繰り返す。
- 形の違う積み木の組み合わせや色をマッチングしながら構造する。
- 構造物を道路や乗り物に見立て、車や人形を使ってイメージを表現しながら遊ぶ。
- 全身を使った粗大運動をする。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

思わず「おもいー」「おおきい」と言ってしまう程の重量感、大きさにより好奇心が湧き立つ様子で、「うんとこしょ」と膝やお腹を支えにし、なんとか持ち上げようとする。

高く積めた時には「みてー」や「できた」と達成感を得られ、保育士は「〇〇ちゃんの頭より高いねー」と気持ちを共感し評価する事で自信へと繋がっていった。又、高い低い認識を持つ事や「1, 2, 3, 4, 5」と数の関心も見られた。

素材の違う積み木や遊具を組み合わる発想から形にしていく姿もあった。

組み合わせ方を試すようになり、「橋みたい」と構造する。保育士が「くまさんがお散歩できるね」と声掛けをすると、わらべうたで人形を渡らせる仕草遊びが展開された。他、車を走らせ道路に見立てた遊びも見られた。保育者が進行方向を知らせる事で複数人でも場所を共有し楽しめる事ができた。

異なる形で組み合わせてバランス遊具を構造すると「シーソーみたい」と人形を座らせ「ぎっこんぱっこん」と前後上下に動かし体験の再現が見られた。

イメージを持ち構造する姿も見られ、「何を作ったの？」と問うと、消防車の写真を指差す。同じ色同士の積み木で構造し、積み木と同じ色のリングを持ちハンドルに見立てて運転の仕草遊びが展開された。模倣をする姿があり、保育士は空間を整理しながら物の所有者を示し助ける事で子ども同士の関わりでは空間やイメージを共有していく姿が見られた。

保育士が高いトンネルを構造すると、しゃがみ歩きや腰を曲げてくぐっていく。少し低いトンネルを構造し、課題を上げる事で四つ這いや腹這い等、身体を試行錯誤しながら使って崩さないようにくぐっていった。

※写真



5 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

- 環境を大きく用意する事で、平行遊びや模倣等、空間を共有し一人一人の遊びを保障できた。
- 木製や牛乳パックの積み木で構造する経験があった為、積む・並べる等のイメージは持っていた。しかしウレタン積み木は質感や重さ、大きさ等素材が異なる為、身体の筋力やバランス感覚、指先足先の微細機能等の全身を使う事ができる。

- 積み木を扱う中で目と手の協応が育つ。
- 大きい積み木を持つ事で自分の身体の大きさを認知する事ができる。
- 自分と積み木、積み木と積み木等の距離感、空間認識が育つ。
- ウレタン積み木は滑りにくく、イメージした物が構造しやすくて、とても良い素材である。
- 他児同士模倣し合う中で、イメージが持てたり共有する楽しさを感じる事ができる。